

Life

G-2 HUMAN Ecology を軸とした ~~Life~~ Long Education のあり方と家庭科教育

日本家庭科教育方法研

○ 秋田茂美子

立川都立短大

坂田淑子 (お5教)

岐阜女子短大家政

道家幸子

群馬女子短大

秋本幸子

目的 快適な人間の生活の在り方を探究する家政学のひとつの視点として、これからの未来社会形成への方向として、本研究会が取り組んでいる生活教育のあり方を、家庭科教育の中で位置づけるための援導、実験および検証を試みた。この研究は、家政学・教育学・社会学、心理学、社会学などを含めたトータル研究である。本研究会が2次6年計画4年度の中間報告である。

方法 ① 家庭科教育方法のひとつの試案としての小学校家庭科カリキュラム統合plan ② HUMAN Ecology Lifeとしての教室環境改善-- HUMAN Ecology Roomの設置と児童の自主参加 ③ HUMAN Ecologyの生活化 ④ 援導SystemにおけるBank Ground picture (6mm自主映画) Having A Cup of Teaの上映を通じて 援導導入に 強烈なショックを与へ内面化へ導き、快適な援導環境をつくり出す。⑤ 援導形態を Open plan Systemにより、自己選択による教員・メンバー・スペースをえらばせ フロアートを作成させた。⑥ 母親の回復教育の一環としての専攻教育における生活教育の位置づけを展開させた。⑦ 生活リズムを重視し、開放的リズムにソフトウェアの中心 B.C.M を活用させた。⑧ 3クラス116人の児童に園児3名の大ま院生による児童10名の行動分析記録がとられた。

結果 この援導を受けた 3クラス270名の児童、母親27名の結果の調査に園児 母と専一級援 (青森専院大生) により明らかにされた。また3クラスの援導3状態は 6mmフィルムによって記録された。